

第1回
リニア駅前エリア整備の在り方検討会議
委員意見要旨

令和2年9月4日
山梨県

第1回リニア駅前エリア整備の在り方検討会議 意見要旨

○リニア駅前エリアの交通結節機能の整備の在り方について

- ✓ 駐車スペースは、利用・管理がしやすいよう用途別に、長時間利用、短時間利用を区別すべき。
- ✓ 公共交通への乗り継ぎのため、駅に近接した形で交通広場を整備すべき。
- ✓ 駅前エリア整備は、適切な洪水確率を想定してグラウンドラインをセッティングすべき。
- ✓ 洪水の影響を受けないために、2階にターミナル機能を持たせ、シャトルバスのフォーメーションをリニア駅付近で上げることも検討すべき。
- ✓ 将来の交通システムの変化に対応するため、駅前エリアの設計は、ある程度フレキシブルなデザインにし、色々なアイデアを取り入れるべき。
- ✓ リニアやリニア駅に関する意見聴取をし、県民・市民のモチベーションを上げていく取り組みも必要。
- ✓ 利用者の利便性確保のため、リニアとバス両方の情報提供や予約などバスターミナル機能の充実が最低限必要。
- ✓ リニア駅前エリアをMaaSを含めたシェアリングモビリティの拠点とし、交通マネジメント機能を持たず考えを示すべき。
リニアが来て、自動運転も含めたシャトルバスの計画があり、日本で一番進めやすい環境。

○公共交通によるリニア駅と既存駅とのアクセス向上について

- ✓ シャトルバスに関して、FCV開発に積極的な自動車メーカーとタイアップする先進的な取り組みも非常に意味がある。
- ✓ 新しいモビリティに関し、バス交通ネットワーク再生計画や先進バス研究会などとも情報共有しながら進めるべき。
- ✓ シャトルバスに関して、速達性・快速性は非常に重要。優先信号、電車のような運賃先払いなど、今のバスシステムにない新しい交通システムを含めて検討すべき。